

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	生理学5	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	前期
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	教科書は「生理学」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	砂川 正隆	実務経験の有無・職種	無		
<b>学習目的</b>					
<p>生理学は生物学の一分科で生物体の作用、機能を対象とする分野。歴史的に生理学はphysiologyの訳で、身体の学という意味であった。そのため身体の主として機能的側面を扱い、その機序を研究する医学の一分科を指すこともある。この科目を受講する学生は、取得を目指す柔道整復師免許が医療資格であることを理解し、資格取得後に患者の患部へ施術をすることを業務とするため、人体の構造と機能を熟知する必要がある。生理学を学ぶことで人体の基礎を理解し、医療を担う専門家として国民の健康保持に寄与することができる人材育成がねらいである。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>生理学は本来、ヒトが生きているということはどういうことか、ヒトの体は生きていくためにどのような営みをしているのかを考え、健康や病気を理解するために欠かせない基礎的学問である。生理学が専門的に扱うのは、神経生理学や筋肉生理学のほか呼吸・消化・循環・排出・生殖などの分野である。将来、外傷・障害の治療に当たる柔道整復師を目指す学生にとっては必要不可欠からざる知識である。基本的な生理学の知識を習得することは医療資格の取得を目指すものとして必須である。</p>					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	教科書を中心に授業を行う。生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのような機序（メカニズム）で現れるかを追求する学問である。人体の機能の理解に取り組む方法として、まず、人体を構成する各要素に分解してその個々の機能を追求し、さらに、その機能がどのようなしくみ（機序）で発現してくるかを探る。そして、最終的にはそれらを総合して、人体全体としての機能やその発現機序を考えようとする。生理学を学ぶことで体の機能を理解し、様々な運動器外傷への対応のための知識の土台を形成することを目標としている。				
注意点	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	0%			
<b>授業計画（1回～15回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	ホルモン概論	ホルモンの一般的性質と種類について理解する			
2回	視床下部ホルモン 下垂体ホルモン	視床下部ならびに下垂体各ホルモンの種類と主な作用について理解する			
3回	甲状腺ホルモン 副腎皮質ホルモン	甲状腺ならびに副腎皮質各ホルモンの種類と主な作用について理解する			
4回	副腎髄質ホルモン 膵臓ホルモン	副腎髄質ならびに膵臓各ホルモンの種類と主な作用について理解する			
5回	精巣ホルモン 卵巣ホルモン	精巣ならびに卵巣各ホルモンの種類と主な作用について理解する			
6回	生殖	性染色体異常ならびに性分化について理解する			
7回	男性・女性生殖器の構成	男性ならびに女性各生殖器の構成とそれぞれの役割について理解する			
8回	前期7週までの振り返りと確認演習	1回～7回の知識が蓄積されているか確認する			
9回	感覚の種類	感覚の分類・種類・受容器・一般的性質について理解する			
10回	皮膚感覚	触-圧覚・温覚と冷覚・痛覚について理解する			
11回	内臓感覚	内臓痛覚と関連痛について理解する			
12回	嗅覚と味覚	嗅覚と味覚の構造・機能について理解する			
13回	聴覚 視覚 前庭感覚	耳・眼の構造ならびに聴覚・視覚・前庭感覚（平衡感覚と加速度）について理解する			
14回	前期13週までの振り返りと確認演習	9回～13回の知識が蓄積されているか確認する			
15回	まとめ	半期で取得した知識の確認			